

(概要版)

一人一人の解釈を生み出す物語文の指導

— 思考の言語化を取り入れた単元構成を通して —

長期研修員 佐藤 多佳子

物語文を読む授業の課題

児童の実態



文章が長くて、
読むのが
たいへんだな。

この物語は、
おもしろいと
思いました。

中心人物は、
かわいそうだと
思いました。

読み方に慣れていない、解釈が感覚的・断片的

新学習指導要領では…

- ・ 言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力をはぐくむことを重視
- ・ 「読むこと」の指導事項に、「**解釈**」という言葉が明記

そこで…

研究の概要

思考の言語化

を効果的に取り入れた
単元構成を考えました！！



自分考えを

話したり



友達の意見を
聞いていたら、
こんなことにも
気付いたよ

書いている
うちに自分の
考えが、はっ
きりしてき
たよ

書いたり



そうすれば…

一人一人の児童が、物語文を
理解して、自分としての意味付
けをする(解釈)
ことができるのではないですか

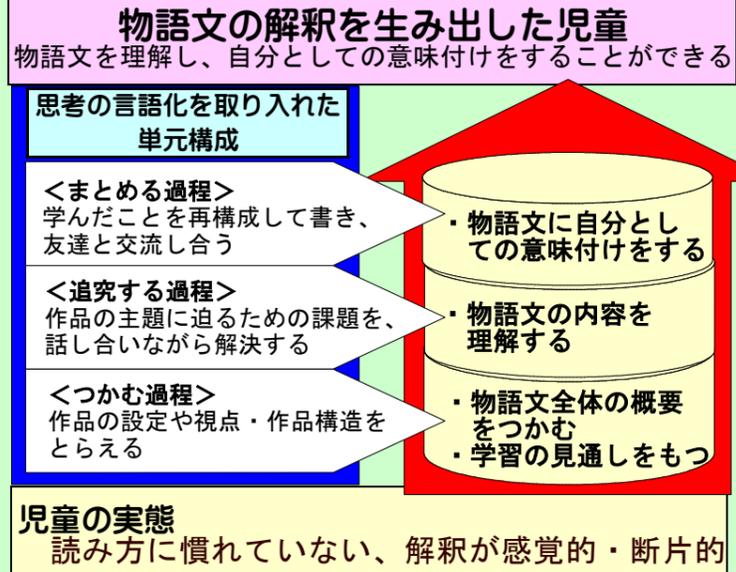
物語文の解釈を生み出した児童 (目指す児童像)



書いてある
ことから探
っていくと、
大切なことが
分かるね。

この物語文
には、こんな
よさがある
んだなあ。

研究基本構想図



授業実践 「一つの花」4年(全10時間)

つかむ過程(4時間)

作品の設定・視点・作品構造をとらえる

ゲーム的な活動を取り入れると、児童の学習意欲が高まります

音読も繰り返し行いましょう

○物語文全体の概要をつかむ

○学習の見通しをもつ

登場人物
ゆみ子(中心人物)
お父さん
お母さん

視点 語り手

作品構造
2つの場面(戦争中・十年後)からなる対比的な構造



追究する過程(3時間)

作品の主題に迫る課題を話し合いながら解決する

思考の言語化
話し合いを取り入れて



物語文の内容を理解する



主題に迫る課題

課題1
「戦争中のゆみ子は、わがままでしょうか」
→時代背景、ゆみ子の人物像を読み取る

課題2
「お父さんがゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするのは、なぜでしょう」
→時代背景、お父さんの思いを読み取る

課題3
「一つの花にこめられたお父さんの思いは何でしょうか」
→「一つの花」にこめられたお父さんの思い(主題)を読み取る

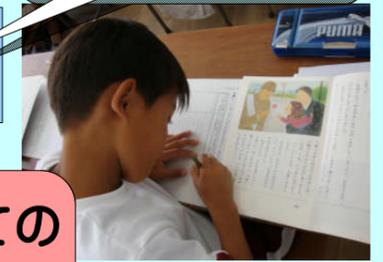
課題を二つから三つ設定し、次第に主題に迫れるようにします。

学習の見通し 「二つの場面を、くらべて読もう!」

まとめる過程(3時間)

読んで理解したことを再構成して書いて交流する

思考の言語化
書くことを取り入れて



物語文に自分としての意味付けをする

お母さんの視点から、物語文を書き換えよう!

場面を対比的に構成

お父さんの思い

作品の設定

お母さんの願い

題名の工夫

あれから十年たった今、ゆみ子の家は...

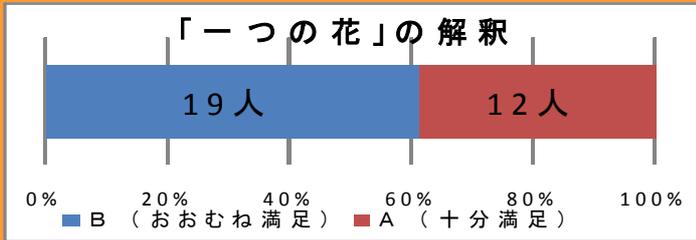
「一つの花」にこめられたお父さんの思い(主題)を読み取る

内容だけでなく、作者の書きぶりも活かすことで、表現の効果を実感させます。

児童の変容

一人一人の解釈は生み出せたか!?

教師による評価



2 評価規準

B (おおむね満足)

必須項目 (①②③④⑤) すべて取り入れられている

A (十分満足)

必須項目すべてに加えて、付加的項目 (⑥⑦⑧⑨⑩) が複数取り入れられている

1 物語文 (児童作品) の評価項目

必須項目

- ① お父さんの願い (主題) を書く
- ② 2つの場面で構成する
- ③ 冒頭に、作品の設定を書く
- ④ 会話文を入れる
- ⑤ 視点を統一する (手紙風・作者風)

付加的項目

- ⑥ 比喩表現
- ⑦ 書き出しの工夫
- ⑧ 具体的記述
- ⑨ 修飾語
- ⑩ 視点人物になりきった表現

児童の感想の変化 (第1時→第10時)

ゆみ子は、おなかがすいていたのでおにぎりを全部食べてしまいました。

場面をくらべて読む中で、お父さんの原真いは変わらないことがわかりました。でも十年後は、お父さんがいないので少しさみしい部分もあると思います。ぼくが書いたさく文の題名が「一つの命」なので十年後は食べ物がたくさんあってゆみ子が元気でいられると思います。

お父さんと別れるなんてかわいそうでした。

十年後の場面はゆみ子がスマホをいじっていて楽しそうだけどそこにはお父さんがいないから本当はさびしいと思いました。戦争中はお父さんとお母さんにやさしく育てられていました。場面を改めて読んでみて、コスモスにはお父さんとお母さんの二人の原真いがこもっていると思いました。コスモスは原真いの花だと思いました。

研究のまとめ



最初に、作品の設定や視点、作品構造をまとめ、作品全体をつかんでおくと、主題に迫る課題を話し合うときには、叙述に基づく多様な考えが出されます。

登場人物の立場に立った互いの意見を共有することにより、自分の考えを広げ、物語文をより理解させることができます。

理解したことを再構成して自分の言葉で書くと、主題を中心に自分の解釈を明確にすることができます。

問い合わせ先 群馬県総合教育センター
担当係 義務教育研究係

0270-26-9213